

ブリンダ・カラット「インド農民闘争、勝利の教訓」

December 6, 2021 12:26 PM CST

Lesson from India farmers' victory:

United mass struggle can win

BY BRINDA KARAT

インド農民の勝利の教訓：人民が団結すれば勝利できる

著者ブリンダ・カラットは、インド共産党（マルクス主義）の政治局員で、全インド民主女性協会の指導者である。



以下は抜粋です。

農民闘争勝利の意義

モディ政権が提出した3つの農業関連法案はついに撤回された。それはインド農民の歴史的な勝利である。それは政治における大衆闘争の重要性を象徴している。

「統一農民戦線」(SKM)が指導した農民闘争は政府を防戦一方に追い込み、闘争は全国に張り巡らされたBJPの支配とBJP政府に対する全面的な闘争に発展した。

BJP はインドの政権与党。モディが党首兼首相。ヒンズー教原理主義を党是とし他宗教や社会主義への嫌悪を隠さない。デマにより仮想敵を作り出し、脅迫的手法（ときに暴力）で政敵を追い込むことで、議会多数派を形成した。

BJP が加えた「Lakhimpur Kheri の残虐」は 8 人の犠牲者を出したが、それは BJP の残忍さの象徴であるだけでなく、農民運動の強さの象徴でもあった。

大企業の立場に立ち、新自由主義を推進する勢力と人民勢力の力関係を考えた場合、変革の引き金として（議会闘争だけではなく）このような大衆闘争がますます重要になってくる。

とくにインド共産党（CPI-M）を中心とする左翼勢力は、農業と農民の苦悩に寄り添い、問題に対処し、変革のビジョンを提示することを通じて、一貫して中心に立ってきた。



農法が廃止されたというニュースを祝う

他の野党は、それ以前の立場に関係なく、農民の要求と闘いを支持するようになった。大衆闘争が政治を動かすだけでなく、政治戦線を動かすことになった。

今回の農民運動の最大の特徴は、出身階層によって差別化されていないことである。共産党系の農民戦線である「全インド農民組合」へ、貧農・農業労働者の組合などが結集し、さらに一般労働者の組合が連帯して闘った。

その闘いに、これまでモディ政権の支持基盤となっていた中農・富農の人々も結集するようになった。

市場システム導入の挫折

農業が成り立っていくためには、多くの食料が生産されなければならない。

そのためには十分な広さの土地、種子や肥料などの生産原料、貯蔵・運輸などをふくむ市場へのアクセス、そして天候に左右されない最低支援価格制度が必要である。

しかし貧農の大部分はそれらの恩恵とは無縁となっている。

モディ政権は歴代政府の農業保護政策を切り捨て、農業協同組合システムを放棄し、アグリビジネスにこれらの管理・運営を委ねようとした。

しかしこのような農民を分割と、企業による支配の試みは完璧な失敗に終わった。今後、広範な貧農層の不安や要求は、農民統一戦線によって解決の方向が示され、包括的に対処されていくだろう。

農村女性の果たした役割

この農民闘争は、農村女性の解放闘争でもあった。女性たちの闘争は、女性が「自立した農民」であり、「働く女性」であることの認識を高めた。女性が闘争を支え、闘争が女性を後押しした。



ハイデラバード警察により拘束される CPI (M)活動家

北部の農村では、「長老会議」のメンバーになる経験さえ生まれた。

これらは、大衆闘争政治の土壌で育った緑の芽である。しかしまだ芽に過ぎない。それは今後の大衆闘争の政治力が強化されることによってのみ真の力と
なっていくであろう。

モディ政権の行った空前の弾圧

モディ首相は敗北を認めたが、間違いを認めたわけではない。彼の演説には謝罪や後悔の言葉はない。モディ政権は農民に、テロリスト、裏切り者、破壊者、嘘つき、犯罪者などさまざまなレッテルを貼りつけた。

内閣の閣僚の一人は、ラキンブルケリの虐殺に関与している。彼らは機会が与えられれば、再び法を推進しようとしている。

闘いのもう一つの課題： 最低価格保障

統一農民戦線は闘いのもう一つの課題、すなわち「農産物の最低支援価格の法的保証」の実現するまでは戦いを続けると宣言している。

さらに他にも、いくつかの重要な争点が残されている。

BJP にとっては残念なことだが、今回のモディ声明によって、来たるべき総選挙で農業問題が争点から外れることは期待できないだろう。

BJP の巻き返し

それでも BJP は総選挙に向けて、有毒な民族的・宗教的スローガンを叫び始めた。

「愛のジハード」キャンペーンは、イスラム教徒がヒンズー教徒の女性と結婚して改宗させるというフェイク作戦である。ほかにも「牛虐殺に反対するキャンペーン」や、警察にイスラム教徒を自由に逮捕する権利を与える動きなどだ。

宗教コミュニティや被差別カーストの抵抗は続くが、いまのところ分裂キャンペーンへの反応は鈍い。

BJP は農民の要求を受け入れることで反感を反らせ、得意技の分裂キャンペーンで失地回復を狙っている。

モディ発言は、農業法の断念ではなく選挙を前にした一時的休戦の可能性があり、今後とも注意を怠ることは許されない。

BJP の階級的性格

BJP はそもそも農民票など当てにしていない。そんなことをしなくても議会で過半数を維持できる。

それどころか、BJP はそもそも農民や労働者と敵対することを活動の柱に据えていた。農民の指導者は非国民と罵られた。

ダーリットや都市の下層カーストの人々は「都市ナクサライト」（毛沢東主治を唱えるテロリスト）と呼ばれ、投獄された。

今後の闘いの展望

インドの農民・労働者は、彼らの勇気と団結で、独裁政権の機能を止め、独裁政権を打ち負かすことができることを示した。

農民運動の勝利は、もっと広い意義を持つ。

それは、私たちの憲法に謳われている正義と民主主義と世俗主義の価値を確認し、真理の側にいるすべての人々に自信をもたらすであろう。